

保存期 CKD 患者における腎疾患用食品の認知度と利用状況

長崎腎病院

○小江桃子 山下万紀子 北村舞 原田孝司 船越哲

【背景】

外来通院している保存期 CKD 患者のために、近年腎疾患患者用の治療食品（以下、治療食）が各種販売されているが、実際の認知度や利用状況は不明である。

【目的】

当院の外来 CKD 患者において利用状況や有効性を調査した。

【方法】

当院外来 CKD 患者 47 名に対し、治療食の認知度と利用状況を調査した。

【結果】

「治療食を知っている」は 77%、「利用している」は 62%であり、最も多く利用されていた治療食は減塩醤油 49%であった。「今後利用したい」という回答はわずか 17%で、治療食に対する意見では、「味が薄い」次いで「価格が高い」が多かった。また、低たんぱく米を利用している患者 6 名の利用前の平均 eGFR は 19.4、使用 2 ヶ月後は 20.9 と横ばいで有意な変動はなかった。

【考察】

今回の調査では治療食の認知度は高いが商品別にみると認知度にばらつきがあることや、価格が高いと感じていることがわかった。低たんぱく米を利用している患者の eGFR は低下していなかったが、今後、観察期間を延長して検討したい。